地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム きよたⅡ 1階	評価実施年月日	平成21年7月15日
評価実施構成員氏名	木村 雅枝 森 末子 市橋 里夏 平山 美登里 増田 信貴 杉山 奈穂 太田 恵子 平林 清子 鈴木 知恵		
記録者氏名	鈴木 知恵	記録年月日	平成21年8月5日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設当初から、今まで通りの生活を安心して過ごせるような場所、『ここが私の家です』の理念に基づき、より現実的なサービスの提供を考えております。	○	より、地域の中で理解され、入居者が過ごしやすいホームとなるために職員の理念に対する意識をより深めていきたいと思っております。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	今年度は、入居者さんを「尊重する・尊厳を守る」ということを職員全員で話し合い、理念の再確認をしました。この理念を常に念頭に置き、毎日の申し送り時やホーム会議に、話し合いをもっています。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域のみなさんに理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族へは、ケアプランを通じて、『地域の中での活動』の大切さを説明したり、また、地域の皆さんには、地域の行事に参加して、入居者の生き生きとした様子を拝見することで、その重要さを理解してもらっています。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者さんと一緒に近所の散歩や回覧板を届けたり、気軽に挨拶するように努めています。	○	保育園との交流をもちたいと思っております。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	老人会の定例会には、定期的に月に一回は2～3名の入居者さんが参加し、一緒にお弁当を食べ、カラオケに参加して楽しい時間を過ごさせて頂いております。	○	老人福祉センターでの行事に参加し、地域の方との交流をもちました。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	昨年は、運営推進会議と合同で、講師を招き『認知症サポーター研修』を開催しました。地域の皆さんの、認知症に対する理解にすこしでも貢献できたように思います。	○	ホームでの実経験を生かし、今後も地域の皆さんが『認知症であっても安心できる地域』を目指すために、活動していきたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で、自己評価を実施し、外部評価をより良いサービスの実行に繋がっています。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	御家族でなければわからない介護の悩みをお聞きし、この思いを無駄にすることなく、地域の皆さんへの認知症の正しい理解につなげていきたいと思っています。	○	前回の運営推進会議では、入居者さんも交えて、町内会の老人会会長さんから地域の歴史、取り組みのお話しをお聞きし、ひとり一人がこの地域で暮らしていると言う実感を持って頂きました。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括センターの職員の方が、運営推進会議に毎回参加して下さいます。	○	市町村担当者に現場の実態を理解して頂き、入居者さんの適切なサービスの理解や支援のために、協力関係を築くように努力したいと思います。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	以前に、成年後見制度を利用し、入居者さんに必要な権利擁護を活用できるように対応しました。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の中で、入居者さんのケアに虐待と受け取られるものがないか、身体の変色など見つければ、会議などで話し合い、対策をたてています。また、御家族にも現状やケアの方法などの説明を行っています。	○	法人内の勉強会などでも虐待についての知識を深めています。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム内を見学して頂くことで、雰囲気を理解してもらい、さらにグループホームのあり方などを詳しく説明して、御家族の質問にもお答えしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者さんが、言葉で表現できない不満や苦情も、表情や仕草から読みとり、職員間で共通の理解ができるよう、会議などで話し合うようにしています。</p>	○	<p>ケアが難しい場合は、担当者がセンター方式などを利用し、よりその方の思いや気持ちに寄り添うようなケアの実現に努力しています。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、入居者さんの活動を写真と担当者のコメントなどをのせて、御家族に郵送しています。また、職員の異動やお知らせも連絡事項としてお伝えし、特に個人的な内容については、手書きで御家族に連絡しています。緊急の内容は、その都度お電話で詳しく状況の説明をしています。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>御家族の訪問時などに気軽に要望や苦情でも言ってもらえる関係作りをしています。また、お電話でも受けています。</p>	○	<p>今まであまり重要視されていない些細な御家族の声も「要望」という形で、くみ取ることで今後サービスの向上に努めたいと思っています。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月2回行うホーム会議、『にこちゃん会議』では、職員ひとり一人の意見を提出してもらい、全員がサービスの向上や運営に関することも含めて、発言する場があります。</p>	○	<p>年に1回、職員と管理者との面談があり、個人的な意見や要望も運営者に反映するように努めています。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員は、1階と2階を兼務し、その時の状況に応じて毎日の柔軟な対応をしています。また、行事の時には、人員確保するなどサービスに支障の無いように勤務調整しています。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>2ユニットを職員が兼務しているため、職員の離職時のダメージは最小限に防いでいます。新規スタッフとの交代期間を1ヶ月もつなど配慮しています。また、その期間のパート職員の時間数を増加して、人員の確保をしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム内では、月にひとりずつ、会議に職員の介護に関する勉強会を行っています。また、毎週木曜日に、法人内の勉強会に参加しています。その他、毎月1回インターネットの院内掲示板を利用した、職員の介護に関する意見や感想を書いたり読むことで、考える場をもち自己トレーニングされています。	○	新規スタッフには、ホームで作成した『介護メソッド』をチェックして、統一したケアを目指しています。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	清田区グループホーム管理者会への参加により、交流をもちサービスの向上に生かしています。	○	他のホームとの見学交流会を検討したいと思います。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のストレスの原因となる人間関係の把握につとめ、重介護による身体の疲労や勤務状況に問題はないか、原因を解明するように配慮しています。休憩時間の確保、休みの希望などがとりやすい環境づくりに努めています。	○	職員間の親睦会を行っています。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員ひとり一人の得意な能力をケアや業務に生かし、実績や努力している内容を運営者に伝え、評価してもらうことで向上心をもって仕事をすることができていると思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にご本人との面談をもち、不安や困っていることを把握してから、無理せず、その気持ちに寄り添うように対応しています。実際に見学して頂くことで、より安心感が得られるようです。要望や希望をお聞きする時間をもちます。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学の時より、御家族の介護に対する不安をお聞きし、実際の経験を通したお話しをすることで認知症の理解を深めて、安心感を持って頂くような対応に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族やご本人の現状をお聞きし、その緊急性や必要性によっては、他のサービスや方法の検討と一緒に対応するようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人の意志を大切に、職員が訪問したり、事前に馴染みの関係をつくるなど信頼関係をつくり対応します。御家族とご本人の要望にできる限り対応します。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居さんは、人生の大先輩であり、『尊重される』存在であり、感謝の気持ちを持って接することを忘れないようにしています。家事などして頂いたら、必ず「ありがとうございました」という感謝の言葉をお伝えしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族からの情報を共有し、同じ気持ちでご本人と接するようにし、また、ホームでの出来事を御家族にお伝えし、一緒に入居者さんを支える体制をつくっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ある時は、ご本人の思いを代弁し、御家族に伝えることで、御家族のよりよい関係づくりを支援し、さらに入居者さんの安心感に繋がるように配慮しています。	○	実際にホームに入居されてからの御家族の関係がより良い方向へ改善され、御家族にとっても精神的安定のある毎日を築いています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	幼なじみの方との交流を持つために、実際に会うことが難しい場合、電話で会話することでもお互いの生きる力になるということを実践から理解できました。御家族との文通も継続しています。また、年に一度、遠距離の御家族が泊まりにきてくださる環境を維持していきたいと思えます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その方の意向を反映しますが、席の配置など工夫することで、ひとり一人の入居者がより安心した支えあう環境をつくることができています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、御家族やご本人に対する接し方は継続的に心掛けています。施設に入居されても、職員は関係を断ち切らず、馴染みの関係として継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや希望を、毎日の生活に生かしやすいように柔軟に対応しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の生活歴をわかる範囲で御家族からお聞きし、センター方式を利用したりして、ご本人のアセスメントをして、安心できる生活を実現できるサービスの提供に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の様子を「生活の記録」に職員が記録し、ひとり一人の暮しかたや生活のリズムを把握し、ご本人のできることやできないことを理解する努力をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人の毎日の生活の様子や声を反映し、御家族の希望や要望をお聞きし、ケア担当者と介護支援専門員が適切な介護計画書を作成できるよう、日々の申し送りや会議の中から、意見やアイデアを取入れています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人の状態の変化に即した、介護計画書を作成するために、現状の把握をご本人、御家族、担当職員と共に検討しています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に毎日の状態の様子を『生活の記録』に記入し、ご本人の変化を察知し、実際の声を反映することで、情報の共有化と介護計画書の見直しに役立てています。	○	ケアプランとの連動を明確にするために、観察の視点をもう一步深める必要性を感じています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族の状況に合わせて、本来は御家族での他科受診も要望がありましたら、ホームで対応しています。できるだけ、希望や要望には柔軟に対応できるように支援しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の住民の方によるカラオケのボランティア活動も開設当初から続いております。また、地域の老人会の文化展示会へも毎年作品の展示をさせて頂いております。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の意向を取入れ、必要であれば他のサービスの利用を広い視野で検討していきたいと思っております。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	毎回運営推進会議では、地域包括支援センターの職員に参加していただき、ホームの理念や活動への理解を頂いております。権利擁護などについても協働して居る皆さんの適切なサービスを支援していきたいと思っております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人や御家族の希望されるかかりつけ医との連携をもち、職員が日常生活の健康状態をお伝えし、適切な医療が受けられるよう支援しております。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ご本人や御家族の認知症に関する不安があったり、職員が相談をするために認知症の専門医を受診し、適切な治療が受けられるように支援しています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週月曜日に看護職の健康管理を行い、体調の異変に早期に対応しています。また、その他に何か気になることがあれば、看護師へ連絡しその都度相談することができます。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合に、可能な限り見舞いに行き、ご本人の様子を拝見したり、病院関係者との情報交換も含めて、退院の時期に備えるようにしています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応に係る指針の説明をし、ご本人と御家族の希望をお聞きして、かかりつけ医との話し合いのもと、終末期のあり方を全員で共有するように努めて居ます。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に向けて、ホームでの現在のできることできないこととお話しし、ご本人と御家族の意向を汲み取り、チームとしての支援を検討します。	○	ホーム会議や勉強会などで、重度化について、チームで統一したケアを目指します。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の施設などに移り住む場合は、ご本人の情報をわかる範囲で提供し、住み替えによるダメージを持たないように対応しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ホーム会議などで、尊厳についての話し合いをし、入居者さんの立場に立った、支援ができるよう声かけや接し方に留意しています。個人情報の取り扱いには、プライバシーを守るよう対応しています。	○	入居者さんを尊重したケアができるよう、介護職員のチェックリストをつくり、自己意識を高め、確認するようにしています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人の意向や自己決定できる場面を大切に、ご自分の意志で生活している実感を持つように支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や気持ちに合わせて、入居者さんのひとり一人のペースを大切に、外出や行事への参加も希望に添って行っています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ひとり一人の希望に合わせた、理美容や身だしなみの支援をし、その人らしさを大切にしています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片付けまで、職員と入居者さんで一緒に取り組み、お茶碗拭きや盛りつけは現在では、すっかり入居者さんの役割となっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ホームや併設の診療所をはじめ、すべての建物が禁煙となっており、入居時にも確認しています。御家族の参加する行事の時など、お酒を楽しまれることもあります。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック票を利用して、ひとり一人の排泄状況を把握し、できるだけトイレ誘導にて排泄できるように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調に合わせて、入浴する日をご本人にお話し、確認して入って頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その日の体調をみて、午前と午後に休息の時間を少し設けたり、ひとり一人の入居者さんが、快適な生活ができるように支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の日課を持ち、役割のある生活をしたり、毎月フラワーアレンジメントを行い、自室にお花を飾り、気分転換して頂いています。	○	年2回、ご家族と一緒に過ごす行事を開催し、皆さんとても楽しまれています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	昔から使用している財布を現在も使用して頂いている。入居者さんの管理能力に応じて、お金を所持して頂き、支払いをして頂くように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の天候や体調に合わせて、日光浴や散歩や買い物などの機会を持つようになっています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族と一緒にお墓参りや温泉など、普段行けないところへも外出を支援しています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	御家族からの手紙に、返事を書いたり、定期的なやり取りが継続しています。また、幼なじみの友達との携帯電話での会話は、ご本人の自室でゆっくりと楽しまれています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問して頂けるような雰囲気作りに心掛けています。御家族が、入居者さんの自室へ泊まることも年に2回くらいあり、ご本人も大変喜ばれています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議などで、身体拘束の可能性や基準など話し合い、拘束のないケアについて理解を深めています。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアをし、チャイムの音を確認して、行方不明を防止しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居さんが安心して過ごして頂けるよう、日中はスタッフ全員で声をかけ合い、所在を確認して安全の把握に努めています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤などの誤飲の防止のため、置き場所の配慮や転倒の危険防止のための家具やものなどの配置に注意しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひとり一人の入居さんの事故の危険性をヒヤリハットなどを分析して、その方に適した安全対策をたてています。	○	ホーム会議で危険性のあるものは、勉強会を行い、職員全員で危険防止のための知識を深めています。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変対応マニュアルを作成し、会議にて勉強会を開催しています。	○	応急手当についての訓練など、学ぶ機会をつくりたいと思います。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設のデイケアサービスや診療所との合同の避難訓練を行ったり、地域のボランティアさんとの連携をとり、災害時の協力体制をつくっています。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	本人らしく自由に生活していくことは、その反面転倒や事故の危険性があることのお話しを、常に御家族に説明し理解して頂いています。	○	ヒヤリハットや事故報告書は、御家族にもお話しして、対策を検討していることなど説明しご理解頂いています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の入居者さんの身体状況に変化を細かく観察し、バイタル測定をして、看護師に報告して、早期に異変に対応しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ひとり一人の服薬に関するファイルを作成し、また他科受診の記録なども記録して、スタッフの理解を深めております。服薬時の誤薬を防ぐために、スタッフ間で声をかけ合い、意識を強めて確認しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防として、散歩や体操などで身体を動かし予防すると共に、乳製品や食物繊維を多く摂るなどメニューに取入れています。また、水分補給をチェックして、できるだけ自然排便に配慮しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの声かけや必要であれば介助を徹底し、義歯の洗浄とうがいを徹底しています。	○	定期的に口腔チェックを歯科にお願いしています。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ひとり一人の食事量や水分量をチェックし、体調や体重の変化に留意して、栄養状態に気を付けています。定期的に、管理栄養士にメニューを確認して頂き、アドバイスをもらっています。	○	毎月2回体重測定を行い、体調管理をしています。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策に対する情報を併設の診療所の医師よりもらい、感染予防のマニュアルを作成しています。毎日消毒液で、手すりの拭き取りを行い、布のタオルを使用せず、ペーパータオルで感染の予防に努めています。入居者さんと職員全員のインフルエンザの予防接種など行っています。	○	職員は毎朝、手荒いうがい、消毒を徹底しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・冷蔵庫・調理用具などの掃除や消毒を徹底し、衛生管理に努めています。食材は、中国製品を使わず、新鮮で安全なものに配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム玄関横には、菜園と花壇があり、ベンチを置いて近隣の方も楽しめるように環境づくりをしています。また、冬場は木にイルミネーションを飾り、近隣の方楽しんで頂いています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下などの共有空間には、入居者さんの行事の様子の写真など掲示し、入居者さんや御家族にも見て頂いております。入浴時は、週代わりで、入浴剤を変えるなど、入浴を楽しんで頂いております。スタッフの出入りの時間帯は、不快な音をさせないなど配慮しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ホールには、椅子を置き、中庭にもテーブルや椅子を置いて、入居者さんが自由にお茶を飲んだり、おしゃべりする場所を提供しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた家具を置いたり、親戚や御家族との写真を置いたり、届いた葉書など飾り、思い思いの落ち着ける居心地の良い空間を工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム全体の24時間の換気と個々の居室には、温度と湿度計を設置し、快適な換気や空調に配慮しています。居間や廊下には、除湿器や加湿器を設置し、湿度の調整を行っています。掃除の時は、窓をあけるなどして、換気を心掛けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部の廊下、トイレ、お風呂には手すりがついており、安全な歩行を支援しています。車椅子の方が使用できるよう、車椅子用トイレもあります。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗が会った場合も、その原因をホーム会議などで話し合い、ケアプランやモニタリングを通して、原因を解明し、環境整備や自立できる生活の支援を行っています。	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先に『にこちゃん農園』をつくったり、季節の花を植えたり、間度からは小鳥の餌台をつくるなどして、入居者さんの活動や意欲が持てる空間作りをしています。	○ 畑を利用して、収穫祭など計画しています。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>②ご本人の声を大切にして、また御家族からの情報をお聞きして、意向にそった生活を支援しています。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>①一日の中の食事やおやつの時間、入浴時などゆったりと会話しながら過ごしています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>①一人ひとりの気持ちを尊重して、ご自分のペースを大切にして暮らしています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>①できない事、できる事を見極めて、出来ない事の少しの支援をする事でご本人から良い表情が見られています。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>②ご本人の声を大切にして、また御家族からの情報をお聞きして、意向にそった生活を支援しています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>①職員が毎日の体調の変化にも気付くよう見守りし、必要であれば看護師や医師に見て頂き、安心した生活を送っていただいていると思います。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>①入居者さんの希望を出来る限り叶えられるように、柔軟な対応をする努力をしています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>②訪問できない御家族の希望や要望も聞けるよう、こちらからお電話したり、信頼関係づくりを大切にしています。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>①ご家族の来所や隣のホームから回覧板が届いたり、地域のボランティアさんがカラオケにいらっしゃいます。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>①開設4年目を迎え、少しずつ地域の方達の受け入れ態勢が定着してきたように感じます。昨年は、運営推進会議と「認知サポーター研修」を合同で行い、地域の方にも「認知症」の理解が深まってきていると感じています。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>①それぞれの能力を最大限に発揮しながら、生き生きと仕事に取り組んでいます。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②ほぼ満足していただいていると思いますが、ひとり一人の入居者さんの希望を叶えることができるように、ご本人の気持ちを汲み取る配慮が更に必要であると思います。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②御家族の来所時に、ホーム内での出来事について報告したり、また御家族からの希望もお聞きするようにして、必要なサービスの提供を支援して行きたいと思っています。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

医療と介護が連携して、地域の皆さんに、『認知症』になっても安心して生活できる場を提供していきたいと思っています。